

アクション・リサーチのまとめ

学校名 岐阜県立関高等学校

研究年度 21 年度 研究対象（学年クラス等） 3年 生徒数 317 名

科目名 Reading 単位数 4

使用教科書名 「POLESTAR Reading Course」(数研出版) 「Cutting Edge 2」(エミル出版)

副教材 「ターゲット 1900」(旺文社) 週4回小テストに使用 授業形態 クラス単位 (計35～45名)

科目名 Writing 単位数 2 使用教科書名 「厳選 英文法・語法・英作文演習」(美誠社)

副教材 「Next Stage 英文法・語法問題」(桐原書店) 週2回小テストに使用

授業形態 Aコース：クラス単位 Bコース：3クラスを4分割(約30名) 習熟度別

クラスの様子・特徴

Aコース：習熟度の高いクラス

国公立難関大学を第1志望とする。

英語・数学の授業はクラス単位で実施し、発展的な内容も指導する。

Bコース：普通クラス

多様な進路志望に対応する。

英語・数学では、複数クラスを分割して、習熟度別・少人数指導を展開し、生徒の習熟度に応じた指導をする。

問題の特定

Aコース：センター形式の比較的平易な文法問題には対応できるが、複雑な文法・構文を含んだ英文の和訳、指示語検索、文章全体の要約等の記述問題を苦手とする。英作文に関しても、難しい語句を使おうと努力するが、文法事項を考慮しながら正しく構成していくことを不得意とする生徒が多い。

Bコース：授業を通し理解はできるが、力として定着していない。例えば、語彙は着実に増えてつつあるが、語法まで意識を払って正しく使うことができない。読解問題では簡単な類推を行ったり、はっきりと提示されている情報を探し出したりすることはできるが、英文の主旨、詳細部分の要点まで理解することは難しい。英文の構造を理解しながらじっくり読み進める意識に欠け、知っている単語を頼りに感覚で理解し満足している生徒が多い。記述問題を特に苦手とする。

現状把握



A 授業観察

- ・ 音読、ペア活動は極めて真面目な取り組みを見せる。
- ・ 小テストに積極的に取り組むことができ、ほぼ全員が設定された合格点を取ることができる。
- ・ 予習をして授業に臨む姿勢が定着しつつある。

B GTEC

Reading：複雑な文法・構文を含んだ英文の和訳、指示語検索、文章全体の要約等を苦手とする。

Listening：習熟度に幅広い層がある。

Writing：難しい語句を使おうと努力しているが、正しく使用することができていない。正しい英文を書くことができる生徒も、パラグラフを考えて文全体を構成することができない。

C 質問紙調査

学ぶ側…英語長文の読み方では「分からない語句は推測しながら読み進め、何について書かれた英文かを把握する。」と答えた生徒が65.0%と非常に多い。知っている単語を頼りに感覚で理解し満足している生徒が多く、指示語や文法事項に配慮や精読に対する意識が低い。

教える側…昨年度と比較すると、読んだ内容の概要・要点を理解させる等、読解力を養うことを意識した活動は増えている。一方、英語を書く場面、聞く場面が減っている。

リサーチ・クエスチョン

語彙の定着と多様なリーディングを継続することによって、読解力が向上するのではないか。

仮説・実践・検証

仮説 1

語彙を定着させるために、月例単語テスト「Word Marathon」を昨年度に引き続き実施する。

実践 1

授業で行う週4回(1回30語)の単語テストに加え、定期的に「Word Marathon」を行い、合格点を70点に設定し、不合格者は合格するまで取り組むように徹底する。

検証 1

1年次、2年次に引き続いての取り組みで、生徒には定着している。努力すれば満点を取れることを、自らの経験から実感しており、多くの生徒が満点を目指して取り組むことができた。3年次は模試が多く、長文問題・文法問題で正解するためには、語彙が非常に大切だと考える生徒が増え、取り組み姿勢はより積極的になった。

仮説 2

速読に取り組む。(昨年度に引き続き)

実践 2

Readingの授業を利用し週4回。集中的に行い速読を意識させる。市販教材使用。

検証 2

生徒が「速読力」を意識することができ非常に良い機会となった。また交換採点を行うことで、他の生徒との「速読力」の差を感じ、得意な生徒から具体的な読み方を教えてもらう様子がみられた。また、GTEC受験で、自分のWPMを客観的に知ることができたのは、非常に魅力的であった。

仮説 3

精読に取り組む。

実践 3

1. 授業で英文を読む際に、指示語、代名詞を意識しながら読ませる。
2. 複雑な文法・構文を含んだ英文和訳の添削プリント。

検証 3

1. 文中に指示語、代名詞を見つけると、チェックしながら読む生徒が増えた。知っている単語からなんとなく文の意味を理解している生徒が多かったが、この取り組みによって、英文をじっくり読み進める姿勢が身に付き、国公立2次の対策につながった。

		2. 正確に和訳するためには、文法・構文の理解が必須であると考え、積極的に添削プリントに取り組むことができた。
--	--	---

リサーチ・クエスチョン

添削指導によって「書く」力が向上するのではないか。

仮説・実践・検証		
仮説 1	実践 1	検証 1
英作文の添削プリントを実施する。	A コース：[対象生徒]全員 Reading の授業において配布。担当教諭が添削する。 B コース：[対象生徒]希望する生徒 自主的に課題を指定の場所から入手し、担当の先生に提出する。	合計 40 回実施。初めの頃は、訳語が似ているだけで語法を知らない単語を無理矢理並べただけの英文を書いていた生徒でも、徐々に慣れ、意味内容が伝わるシンプルな英語で表現するようになった。予想以上に自主的に取り組む生徒が多く、効果的だった。実際に書くスピードも速くなったし、英語で表現することは楽しいとの感想も聞かれるようになった。模擬試験でも英作文の得点率は他分野と比べ高かった。ただし、綴りミスや単純な時制ミスなどが相変わらず多いままの生徒も少なからずいた。

リサーチ・クエスチョン

集中的なリスニングによって、「聞く」力が向上するのではないか。

仮説・実践・検証		
仮説 1	実践 1	検証 1
朝リスニングを実施する。	第 1 回 5 月（10 日間） 第 2 回 10 月（10 日間） 第 3 回 1 月（7 日間） 朝の SHR の時間を利用し実施。 市販のリスニング教材使用。	リスニングは、5 月、10 月、1 月の 3 回、集中的に実施した。センター試験 1 ヶ月前からは週 1 回リスニングに重点を置いた授業をした。聞き取りのこつや解説が充実した教材だったこともあり、リスニングを苦手だと答える生徒は徐々に少なくなった。センター試験のリスニングの得点も昨年度の 3 年生に比べ向上した。

研究の成果

「語彙を増やすこと」を本校における３年間の研究の最重点項目にした。その中心として月例単語テスト「Word Marathon」を３年間継続して実施した。ある程度の語彙が定着してくると、「単語の意味がわかるから、長文が読めるようになった」「単語がわかればリスニングもできる」と考える生徒が増え、自主的に語彙を増やそうとする姿勢が多くみられるようになった。英語を頑張ろうという学年全体の雰囲気のみならず、英語が苦手な生徒でも自信や意欲を持つことができたのが、この研究の大きな成果であった。

今後の課題

今後の課題として、いわゆる「使用語彙」を増やすことがあげられる。「Word Marathon」などを通して「理解語彙」を増やすことはできたが、使用語彙の点では大きな進展は見られなかった。英作添削プリントを通じて、よく使う単語ほど使い方を辞書で確認させることを実施してきたし、単語小テストの読み合わせ時に語法、特に個々の動詞の使い方を意識させコロケーションの形で読み合わせをしてきたが、結果としては不十分なままで終わってしまった。最低限押さえて欲しい最重要基本語彙の語法を一覧にして生徒に提示するなど、何らかの具体的な方策が必要だと思われる。